

Hu jambo?

スワヒリ語で「お元気ですか？」の意

Kenya ナイロビ日記NO5 19th . Aug . 2007

文責 北海道 野付郡 別海町立上春別中学校
ナイロビ日本人学校派遣 教諭 飯田雄士

Polepole ni mwendo. Haraka haraka haina baraka.

(スワヒリ語のことわざで「ゆっくりはかえて歩みが早い。急ぐと神の祝福がない」という意)

インターネットがつながらないとイライラし、停電になれば「仕事が出来ない」と嘆き、「昨日1ドル66シで換金したのに、今日は67シに上がっていたさあ」と言って悔しがる……。ケニアに住んでもう2年4ヶ月になるのに、なかなかケニアの**ボレボレ**(ゆっくり)精神を身につけることができません。

ロンドンで先月行った健康診断の結果に愕然とし、「間食」をしなくなったためか、最近とても体調がよく、時々退勤ランニングをしています。昨日は突然、雷をとまうどしゃぶりの雨に遭いました。ケニアの人の**感覚的天気予報力**は優れており、道を歩いていた人たちが小走りを始めると、その10分後くらいに必ず雨が降り始めます。雨がふると、大勢の人がせまいバス停に集まり楽しそうに雨宿り。私はそのまま走り続けましたが、わざわざ併走して私を傘に導いてくれようとする人。「まいったね」というような意味であるスワヒリ語を叫んで前からかけてくる若者。日本語で「すごいすごい！」と声をかけてくれた女性・・・私を追い抜いていった人が、革靴で走る**ムゼー**(お年寄り)だったりする。

急激な経済成長で、貧富の差がますます大きくなり、「気持ちが壊れてしまった」と嘆く人もいますが、人々とのつながりを大切に、**自然を受容してきたケニアの人々の暮らし**を堪能できた雨の夕暮れでした。



朝日のキリマンジャロ

世界2番のスラムについて

南アフリカのソエトに続く世界2番の大きなスラムがナイロビの**キベラスラム**です。4~5平方キロの中に住んでいる人は**80万人**と言われ、国の土地に勝手に建てたトタン屋根の長屋がびっしり詰ま



っています。長屋には家主がいて、賃料は月750円(土床)~1500円(コンクリート床)。電気の供給はなくランプを使用し、水は道路脇に設置された水道を使うか、業者からタンク入りのものを買っています。せまい未舗装の道ばたにはゴミがあふれ、広場には共同トイレがあるものの、所構わず用を足すため、悪臭が漂います。**薬物、アルコール中毒、家庭内暴力、強姦、売春、HIV感染が連鎖し、犯罪者の隠れ家にもなっている**ので、政府はスラムクリーン策を打ち出していますが、いっこうに進んでないのが現状です。

そんなキベラスラムに、学校を作る活動(NGO)を展開している日本人が**早川千晶さん**です。写真は彼女の紹介で妻絵里香がキベラの学校を訪問した時のものです。この「スラムの私立学校」で、素直な子どもたちは様々な事を



吸収していきますが、都会のスラムは「**外の世界との貧富の差**」を感じてしまうので、大人のストレスも大きく、子どもたちは思春期になると心がずさんでしまうことが多いそうです。

ケニアの公立学校にて

左はスラムのNGO立学校ですが、こちらはケニアの一般的な公立小学校。ケニアの教育制度は**8,4,4制**で、現政権からは小学校は原則無償になりましたが、教室には**50~100人**の子どもがあふれています。そのため、都会では少人数クラスの私立学校に通わせたい親が多く、教育費が高くなることから、子どもを多く持たない家庭も出てきています。

写真は、日本人学校と交流している**Killimani Primary School**の6年生数学授業。すでに方程式を学んでいましたが、計算問題ができた子は、先生に丸つけをしてもらうために、ずっと手を挙げ続けます。しかし、50人を越えるクラスなので、なかなか先生は来てくれません。参観していた私はつい我慢できずノートチェックに回りましたが、ほとんどの子は正解で、間違えた子も理解できるまで私の拙い英語を一生懸命に聞いていました。



2007年度のナイロビ日本人学校

昨年度、最も少ない時で32名まで児童生徒数が減少した本校でしたが、2007年度は**42名(31%増!)**でスタートを切ることが出来ました。私は「これだけ児童生徒数が増えたのだから派遣教員カットはない」と甘く考えていましたが、国の予算カットは予想以上で、校長が帰国した上に、教頭の派遣がなくなってしまいました。管理職2人と、国語科、音楽科の派遣教員が帰国したのに、新しく派遣された教員は、新校長と体育科、数学科教員の3名。国語教育の重点化を前面に打ち出し、金管楽器演奏に力を入れてきた本校にとっては、国語、音楽を指導できる教員が来なかったことは深刻な問題でした。

昨年度、保護者の意見を最大限取り入れ、信頼が回復されたと思った矢先の専門教科のアンバランス。昨年まで体育と数学を指導していた私が6年生以上の国語を担当し、小学校教員に音楽科を担当していただいています。保護者の教育ニーズが高い中で、専門外教科を担当するのは正直負担でした。

幸い保護者や在ケニア日本人の方々が大変協力的で、**外部講師、学校支援ボランティア**として学校を支えて下さるので、何とか乗り切れています。

教員の週の持ち時間が25時間近く、教頭職減で教育活動以外の仕事も多くこなさなければならないこともあり、**授業料を30%値上げ**させていただいて事務員を採用し、次年度に向けて「**現地採用教員**」も探しています。



現在担任している中学1年の生徒たち。とにかく明るく、私の疲れを吹き飛ばしてくれる。



児童生徒会主催の餅つきでの峻大。本校の2年生になりました。



日本人会との共催で行う大運動会。最終種目大人の400mRで40才代中心の教員チームが青年協力隊を破り、大会新で見事優勝。念願の3北川をゲットした！一昨年は惜敗、昨年は私がバトンを落として負けていた。



健康診断のために滞在した**ロンドン**の**大英博物館**前にて。数々の歴史的遺産が存在し、地下

鉄、バスの便もよい。テムズ川沿いの遊歩道や美しい公園でジョギングできただけでも訪英の価値有り。ただし**物価は世界2位**で、親子3人の寿司代が15000円。**まいった!**

2001年世界遺産となったケニアインド洋の**ラム島**でロバに乗る峻大。白壁が立ち並ぶ細い路地に黒いアラブ風の衣装ブイブイに身を包んだ女性。



中世イスラムの世界そのまま。車はなく、移動はロバかダウ船。やることなく、とにかく**暇だった!**

子どもたちが自国歌を斉唱!

ナイロビにある外国人学校(英語を第二言語とし、母国語で授業を行っている学校)が交流する**カルチャーディ**が5月17日に、日本人学校を会場に行われました。本年度は、日本人学校、ドイツ人学校、オランダ人学校、スウェーデン人学校、フランス人学校の子どもたちが混ざってグループを作り、各国の教員が用意したブースを回って、それぞれの**伝統の遊びや芸能を体験**しました。そして最後は体育館で自国の国歌を斉唱。日本人学校も含めて、どの国の子どもたちも生き生きと大きな声で国歌を歌っていました。

日本の学校では国旗、国歌の問題がまだ燻っているようですが、自国の国旗や国歌に誇りを持ってないのは大変奇異であると言えるでしょう。ケニアでは映画の開始前など、

イベントの前には必ず国旗を示し、国歌が流れます。**世界的に類を見ない経済成長を成し遂げ、宗教的にも中立である日本は、多くの国から羨望の眼差しを受け、国際平和への貢献が期待されています。**そんな日本に誇りを持ち、日本人としてのアイデンティティを前面に出せる国際人の養成が、教育現場においては必要であると感じています。



IAAF世界クロカンがケニアに！

昨年、アジアで初めて福岡で行われた**世界クロスカントリー選手権**大会が、今年はアフリカで初めて、ケニア**モンバサ**にて開催されました。この大会に合わせてケニアに来てくれた学生時代の友人**神田富士男くん**と一緒に、日本選手、そしてケニア選手の応援に行ってきましたが、観衆の熱狂ぶりはすごかったです。ケニアの人気スポーツはサッカーと陸上ですが、世界に通用するのは長距離走のみで、大会前から、隣国エチオピアと「**マラソン王国**」という名をかけての一騎打ちが話題となっていました。国別対抗の結果は、ケニアの圧勝でしたが、メインのシニア男子12kmで、**ルビツ金メダリスト**、エチオピアの英雄**ベケレ**選手が途中棄権した時の会場の大歓声は忘れられません。日本では、他国選手のアクシデントをあれほど素直に喜べないでしょう。

ケニア国民の大イベントは、**盗賊団の大イベント**でもあり、選手団が泊まったホテルの部屋は荒らされ、大会本部のパソコンまでもが盗まれ、私が持っていた最新式のDVDビデオカメラも、観衆に押された際にあっという間になくなってしまいました。これに懲りて、しばらくは東アフリカにおいて世界規模のスポーツイベントは行われないことでしょう。



シニアレースで**ベケレ**選手の前を走る日本実業団所属の**マサイ族ギデオ**君。今回は個人4位であったがナイロビで**キャマク**焼肉と一緒に食べた時、「世界一になれるようがんばります」と屈託なく答える彼に好感が持てた。今私がかもっとも応援している選手である。



ケニアで仲良くなった元山梨学院大所属「**駅伝ごぼう抜き男**」**ステファン・マヤカ**君と一緒に。

彼には日本人学校の持久走記録会で、子どもたちと一緒に走ってもらった。奥さんは日本人であり、彼は日本国籍を有すケニアキシイ族出身の日本人である。



水を川から運んでくるのは女性と子どもの仕事。重い水を頭に載せて運ぶ。この「**生活トレーニング**」がケニアの人々に優れた身体軸と体力をつける。ケニアの水道普及率は44%程度。郊外においては家に水道があるのは稀である。



モンバサの象徴、**タスクス**の前で



卒業式恒例の教職員応援団。
身体をはって仕事をしています。



海外にいと不思議と日本文化に触れたいくなります。プロの**石川**棋士と**峻大**の対局。私も初めて将棋を指すようになりましたが、峻大との対戦成績は3戦1勝で分が悪いです。